

バスケットボールのフリーランス・オフenseの研究

野 老 稔

(武庫川女子大学文学部教育学科)

The Study of Free Lance Offense on Basketball

Minoru Tokoro

Department of Physical Education

Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663

従来より、バスケットボールにおけるセットオフenseは、チームとして一定の攻撃の形を決めて攻撃する方法と、それぞれの場面においてプレーヤーが自由にプレーを選択して攻撃する方法とに大別されてきた。吉井は前者を「パターンオフense」、後者を「フリーランスオフense」と呼び攻撃法の発達はず「パターンオフense」から始まり、その攻撃法の問題点を解消するために「フリーランスオフense」が発展したと述べている。さらに吉井は一般に攻撃法とは攻撃のために占めるプレーヤーのフロア上の配置（フォーメーション）と、その配置から得点をあげるための動き（スコアリングプレー）から構成されるものであり、特定のフォーメーションから特定のスコアリングプレーで得点しようとする攻撃法がパターンオフenseであり、特定のフォーメーションが示されているが、そこから展開されるスコアリングプレーについてはプレーヤーが自由に選択できる攻撃法がフリーランスオフenseであると規定している。

そこで今回アメリカの文献から多くのコーチの考え方を整理することにより、よりはっきりしたフリーランスオフenseの解明ができると考え、この研究に着手した。

文献研究 ビデオテープによるゲーム分析

1. フリーランスオフenseの歴史

アメリカに於けるフリーランスオフenseはいつ頃から始められ、どのようにして生まれてきたものかを調査した。1891年、James Naismith によって考案されたバスケットボールは当初の「9人制」が「5人制」に変わるなどのルール変更や戦法の発達により、次第にシステムプレーで攻撃するようになって来た。その代表的なコーチとして Adolph Rupp を挙げることができる。彼は1930年から1972年の間ケンタッキー大学のヘッドコーチとしてNCAAに4回優勝した。ガード、センターを中心としたセットオフenseと堅いマンツーマンディフェンスを主体としたチームをつくり、後継者の Joe Hall と共にケンタッキー大学の伝統を作りあげた。続いて1949年から、1975年の間UCLAのヘッドコーチをした John Wooden もその代表者である。彼は1964年から12年間で10回NCAAの優勝を成し遂げたコーチでハイポストを利用したバックドアプレイとカットインプレイを主体としたシンプルなセットオフense及びオールコートプレスディフェンスを主とした早いバスケットボールを展開した。彼の教え子である Denny Crum はこのシステムを利用して1980年、1986年と2度にわたりルイビル大学を優勝に導いた。これらのコーチがパターンオフenseで成功しているコーチである。

一方、パターンオフenseに対し、最近フリーランスオフenseを使うチームが多くなった。その代表的なコーチとして1976年にUCLAの連勝をストップさせたインディアナ大学の Bob Knight がいる。彼は1981年、1987年にもNCAAに優勝した。彼の使用しているオフenseはモーションオフenseと呼ばれている。又1962年よりノースカロライナ大学のヘッドコーチをし、1981年NCAAに2位、1982年に優勝、現役コー

チとしてはNCAAトーナメントに最多勝利を記録している Dean Smith の使用しているオフENSEをフリーランスパッシングゲームと呼んでいる。1988年優勝のカンサス大学の Larry Brown もパッシングゲームを使っている。又ここ数年常に上位に入っているデューク大学の Mike Krzyzewski はモーションオフENSEを使っていた。これらのコーチがフリーランスオフENSEで成功を取めているコーチである。

この様にアメリカではNCAAの上位チームの成績からみてもパターンオフENSEからフリーランスオフENSEへと次第に流れが変わって来ている。そしてフリーランスオフENSEはモーションオフENSEとパッシングゲームに大別される。

2. フリーランスオフENSE (モーションオフENSEとパッシングゲーム) の概念, ルール, 利点の比較

これについては次の7名のコーチの文献より比較を試みた。

※ モーションオフENSE

- ・ Jeff Meyer ; リバティ大
- ・ Bob Knight ; インディアナ大
- ・ Jone Tompson ; セントローレンス大
- ・ Mike Dunlap ; 南カリフォルニア大

※ パッシングゲーム

- ・ Tom Stewart ; ユタ州立大
- ・ Dean Smith ; ノースキャロライナ大
- ・ Doug Riley ; ブラッツバーグ州立大

1) 概念の相違

Mike Dunlap は「モーションオフENSEとはスペシャルからスペシャルへと移して行く事のできる連続性を持った攻撃法を言い、スペシャルとは相手のディフェンスの個々の弱点を利用することを目的とし、ある一定のプレーヤーの孤立を目的としてデザインされたセットである」と言い、Bob Knight は「自分達のモーションオフENSEはスクリーニングゲームである」と言い、Dean Smith は「自分達のオフENSEはフリーランスと言わずパッシングゲームと呼んでいる。フリーランスと言うと一人よがりのプレーに走りがちであり自分達は5人のまとまりを強調している」と述べている。

2) 基本ルールの相違

この事についてパス, ドリブル, カッティング, スクリーン及びプレー上のルールの数について比較してみた。

㊦ パス

「ボールを受けたら2秒間キープしなさい」との記述が Bob Knight 及び Doug Riley になされていた。総てのコーチがパスをした後のプレーについて記述している。すなわち「ギブアンドゴー」, 「はなれた方へスクリーン」, 「カットトウザバスケット」, 「ディレドカット」, 「スクリーンアンドドリブレイス」などがあり、総じて「パスナーは自分のパスした方へ動いてはならない」とあった。

㊧ ドリブル

総てのコーチがドリブルについての制限を加えている。すなわち「ボールをアップコートに進める」, 「パスアングルをよくする」, 「トラブルから逃れる」, 「直接ゴールをねらう」, 「フロアバランスをとる時」にのみドリブルを許しており、無駄なドリブルは極力さける指導がなされている。

㊨ カッティング

2種類の選手の動きがある。ショットやパスのためオープンになるためのカット, スクリーンをセットするためのカットである。各コーチともVカットの使用を強調しておりスクリーナーとカッターのタイミングが最も重要である。

㊩ スクリーン

2種類のスクリーンがある。1つは垂直のスクリーンであり、もう1つは平行のスクリーンである。これはベースラインを基準に動きをとらえたものであり、ベースラインへ向うものが垂直であり、3秒レーンを

横切る動きが平行になる。又正確な角度でスクリーンをセットするためにスクリーナーはディフェンスの位置を読む必要がある。この状況判断のためのプレーヤーの動きをヘッドハントと言う。

⑨ プレー上のルールの数

Dean Smith はインサイドマンに12, アウトサイドマンに17, Bob Knight はインサイドマンに10, アウトサイドマンに7のプレー上のルールを課している。この両者の数のみを単純に比較はできないが Bob Knight は「ルールの数は最小限にしておくべきだ, 多くのルールを持ってば持つほどパターンオフenseに近づく」と述べている。ちなみにこの両氏のルールをいくつかのポイントにしぼり比較してみる。たとえばアウトサイドのボールマンについては, Bob は「ゆっくり2秒間ボールを持って, パスは早すぎるより少し遅い方がよい」と言っており, Dean は「素早く動き2秒以上ボールを持つな」と言いむしろ早いボールまわしと早い動きを強調している。インサイドのポストマンについても両者のルールには若干の違いが見られる。Bob は「センターが高い, ローポスト以外でプレーする事は価値がない」と言い積極的に直接ゴールを攻撃するのに対し, Dean のポストの地域・特にハイポストの地域は非常に広く, 「ハイポストプレーは逆サイドへの攻撃展開に主たる目的を置いている」ことであった。このように各コーチはそれぞれプレー上のルールを持っておりそれはおのおの若干の相違がみられた。

⑩ 利点について

フリーランスオフenseの利点についてみると

- ・プレーヤーが自由にプレーを選択できる
- ・5人の得点のチャンスがある
- ・簡潔性があり教えるのが簡単である
- ・リバウンドの際のボックスアウトがむづかしい
- ・パターンオフenseのあとにそのまま使える
- ・セカンドブレイクとしても使える
- ・あらゆる防御に適応できる
- ・スカウトするのが困難である

などがあつた。これらはパッシングゲーム, モーションオフenseに共通して言えることである。

3. ビデオテープによる比較

1) パスとスクリーンについての比較

ゲームビデオ分析についてはインディアナ大学のモーションオフenseとノースキャロライナ大学のパッ

Table 1 The average number of passes scored for each possession.

North Carolina vs North Carolina state					
Team	number of passes			possession	average
	1st	2nd	total		
NC	131	115	246	73	3.4
NCst	91	96	187	83	2.3

Table 2 The average number of screens scored for each possession.

number of screens					
Team	number of screens			possession	average
	1st	2nd	total		
NC	68	61	129	73	2.6
NCst	35	33	68	83	0.8

Table 3 The average number of passes scored for each possession.

Indian vs Nevada-Las Vegas					
Team	number of passes				
	1st	2nd	total	possession	average
IU	72	75	147	95	1.5
UNLV	80	80	160	104	1.5

Table 4 The average number of screens scored for each possession.

number of screens					
Team	1st	2nd	total	possession	average
IU	90	85	176	95	2
UNLV	50	27	77	104	0.9

ングゲームのパスとスクリーンについての両大学の対戦相手との単純比較によりその特徴をとらえることを試みた。

- ㉔ ノースキャロライナ大 VS. ノースキャロライナ州立大 Table 1, 2. 攻撃回数に対するパスの数を比較してみると1回の攻撃につき3.4回行っており明らかに相手チームを上まわっている。スクリーンについても同様に2.6回でありこれも相手チームを上まっていた。このゲームは両チーム共マンツーマンディフェンスであった。ゲーム結果は67対68でノースキャロライナ州立大の勝。
- ㉕ インディアナ大 VS. ネバダラスベガス大 Table 3, 4. 攻撃回数に対するパス数は両チーム共1.5回で同数でありスクリーンを見ると2回であった。このゲームも両チームともマンツーマンディフェンスであった。ゲーム結果は97対91でインディアナ大の勝。

㉔㉕の2ゲームをみるとノースキャロライナ大のパスとスクリーン、インディアナ大のスクリーンを特徴としてとらえる事が出来る。

2) エントリープレーについて

次にエントリープレーをみると1-4, ダブルロー, 1-3-1, Tなどのパターンから入りフリーランスに移行してゆくケースが多い。

フリーランスオフェンスの研究にあたり次のことがわかった。

- ① アメリカのバスケットボールの歴史をみると必然的にフリーランスオフェンスが生れた。それは情報化によるスカウティング力の向上, ルールの変更, チェンジングディフェンスの発達などにより生れて来た。
- ② フリーランスオフェンスには大別してモーションオフェンスとパッシングゲームがある。代表的なコーチは Bob Knight と Dean Smith があげられる。
- ③ モーションオフェンスとパッシングゲームの違いはパス, ドリブル, カッティング, スクリーンについては特に認められず, プレー上の基本ルールについて各コーチの考え方に若干の違いが認められた。あえて違いを言うならモーションオフェンスはスクリーンを主体的にとらえているのに対し, パッシングゲームはボールの動きすなわちパスを主体的にとらえている。その違いはそれぞれのコーチのフィロソフィの違いである。
- ④ フリーランスオフェンスのエントリーアラインメントには1-4, 1-3-1, 2-3, T, ダブルローなどがある。

バスケットボールのフリーランスオフェンスの研究をアメリカの文献及びビデオテープによるゲーム分析に

より試みた。フリーランスオフenseにはモーションオフenseとパッシングゲームがある。それはおのおのプレー上の特徴をとらえたものであり前者はスクリーンに後者はパスに主体をおきスコアリングプレーを構成している。また両者にはプレー上のルールすなわち「約束事」に若干の相違がみられたが、むしろ各コーチのそれぞれのフィロソフィの違いにより「モーションオフense」あるいは「パッシングゲーム」と呼称している。そしてモーションオフenseは Bob Knight, パッシングゲームは Dean Smith がアメリカでの代表的コーチである。

注

1. 吉井 四郎, バスケットボール指導全書, 大修館, 1987
2. *The Basket Ball Bulletin*, NABC, 1988
3. D. Smith, *Basket Ball*, Prentice-Hall, 1981
4. E. Herman & L. Masin, *Scholastic Coach*, Scholastic Inc., 1987
5. Z. Hollander, *The Modern Encyclopedia of Basket Ball*, Four Winds Press, 1983
6. B. Knight, *Basket Ball Clinic II*, Katz Sports Presents, 1988 (Video)
7. N C A A ゲームビデオ, 1986, 1987.

ここで使用したビデオは、野老が、'86-'87年にかけて、アメリカでの研修中に、現地で収録したものである。

(1989年9月27日受理)